

(別紙5)

補助事業番号 25-2-014
補助事業名 平成25年度 お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 認知症予防財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

認知症の予防、治療に関わる啓発事業を進め、もって社会福祉の増進に寄与する

(2) 実施内容

1) 認知症の無料電話相談記録票のデジタル化及びデータベース化

過去22年分の電話相談記録票の入力を山手情報処理センターに委託し、平成25年8月から実施した。

記述式の相談・回答内容は全文入力しているため時間がかかり、年度を越えた平成26年8月末に約2万1,000件すべての入力を終えた。平成25年9月以降の新規相談は研修を受けた相談員自身が入力している。パソコンとサーバーは大塚商会と契約し平成25年4月に設置した。



①紙の相談記録票の内容をサーバーに入力していく担当者



②相談記録票がデジタル化されることに伴い、入力方法の研修を受ける相談員

2) 報告書・ガイドブックの編集発行

データベース化された電話相談記録票を活用するため、統計分析法検討委員会を平成25年9～11月に3回開催し、日本の介護事情の変遷が分かる報告書と親や連れ合いの認知症に悩む家族が最初に手に取って読んでもらいたいガイドブックの2冊を同時刊行した。

報告書は400部、ガイドブックは当初の800部から増刷を繰り返し2,500部印刷し、自治体や介護施設、家族の会等に配った。



3) シンポジウムの開催

報告書とガイドブックのお披露目を兼ね、平成26年3月20日に東京都千代田区のパレスサイドビル内毎日ホールに約50人の参加者を得て開催。

毎日新聞への告知をはじめ、文化放送「日曜はがんばらない」のお知らせコーナー、パレスサイドビル内のメールマガジン、財団報の記事等で催しを知った方たちが講演と質疑応答に熱心に耳を傾けた。参加者全員に2冊を差し上げた。



2 予想される事業実施効果

(調査研究報告書とガイドブックの刊行、及びシンポジウムの開催)

刊行した上記2冊はシンポジウムに招待した別の認知症電話相談グループにも差

(別紙5)

上げたほか、その中の一つである社会福祉法人浴風会「介護支え合い電話相談室」が毎年開催している「認知症高齢者と介護家族のための電話相談サミット」(4団体参加)の会場でも約200部配布させていただいた。

このように電話相談グループ同士の連携・情報交換が年々盛んになってきており、本財団の刊行物による情報発信の試みも互いの相談技術を向上させ切磋琢磨するいい機会になっていると考える。それがひいては本人や家族が認知症になったとき、どうしたらいいかと迷った際に、灯台のように暗闇の中の一筋の灯りとなるよう努めてきた「認知症110番」の存在意義をさらに高めていくと信じている。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

(認知症の無料電話相談記録票2万1000件が入ったデータベース)

＝財団ホームページのトピックス「**「認知症110番」の相談記録票データベース化完了**」(2014年8月)ほかで紹介

(URL) http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/topics/2014_08_1.html

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

(報告書とガイドブック)

＝財団ホームページのトピックス「**認知症110番**」報告書とガイドブック好評、**申し込み続々**」(2014年6月)ほかで紹介

(URL) http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/topics/2014_06_1.html

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人 認知症予防財団 (ニンチショウヨボウザイダン)

住所： 〒100-8051

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 毎日新聞社内

代表者： 理事長 朝比奈 豊 (アサヒナ ユタカ)

担当部署： 事務局

担当者名： 事務局長 紀平 重成 (キヒラ シゲナリ)

電話番号： 03 - 3216 - 4409

F A X： 03 - 3216 - 3620

E - m a i l： fpd@orion.ocn.ne.jp

U R L： <http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/>